

2020年7月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「悪化した後、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるもとで、厳しい状態にある」と、前月の「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、悪化している」から、表現を変更しました。表現は変更しましたが、判断としては、前月から横這いです。
- 需要項目ごとの判断も、変更はありません。個人消費は、持ち直しの動きがみられますが、全体としては低い水準が続いていますし、観光は厳しい状況にあります。また、公共投資は、持ち直していますが、住宅投資は低水準で推移しています。
- 雇用面については、前回、下方修正しましたが、今月は変更はありません。金融機関の貸出の面についても、前回と同じ判断で、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、6月、5か月連続で前年を上回りました。政府の緊急事態宣言の解除により、外出自粛の動きが和らぎ、店舗営業が次第に正常化する中で、大規模店でも売上の回復がみられました。衣料品の販売は低調でしたが、引き続き、日用品や食料品の需要が堅調に推移したほか、特別定額給付金支給の効果もあって、テレビや白物等の家電販売に持ち直しの動きがみられました。ただ、足もとでは、外出自粛の動きが和らでいる中で、日用品や食料品の需要は、増勢が鈍化しつつあるとの声も聞かれています。

- 6月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽、合計とも、前年を下回りました。合計は昨年10月以降、9か月連続のマイナスです。引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う来店客の減少が販売面に表れた格好となりました。加えて、これまで自動車メーカーが生産水準を落としていた影響で、車種によっては在庫が少なく、受注から登録までに時間を要することも影響しているとみられます。自動車ディーラーの店頭では、客足が戻りつつありますが、こうした状況が解消されないうちは、登録台数の回復のペースは緩慢なものになる可能性があります。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、6月は新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるもとので、全ての空港で前年を大きく下回り、全体でも前年を大きく下回りました。5か月連続の前年割れです。この間、旭川空港の国際線の就航便数も、6月は、4か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数も、6月、前年比大幅な減少となりました。こうした中、ホテル・旅館では政府の緊急事態宣言解除を受け、営業を再開する先がみられた一方で、休業を継続する先もみられました。旭川市内のホテル客室稼働率は、前月、過去最低水準を更新したあと、6月はそこから多少回復しましたが、前年を大きく下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、6月、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーとも前年を大きく下回ったことから、合計でも前年を大きく下回りました。ただ、旭山動物園が6月より営業を再開したこともあり、前年比マイナス幅は前月より縮小しています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、6月、上川、宗谷、オホーツクの全てで前年を上回りました。2020年4月以降の累計では、宗谷、オホーツクが前年を大きく上回ったほか、上川も前年を上回ったことから、全体でも前年を大きく上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、5月、持家、貸家、分譲とも前年を上回りました。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、5月、旭川、稚内、北見、網走で前年を下回りました。旭川、北見、網走では、前月に続き、1倍を下回り、この結果、全体でも2か月連続の1倍割れとなりました。新規求人数は、5月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を下回り、この結果、4つの職業安定所を合計した新規求人数では、2か月連続で前年を2割方下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、6月も前年を上回りました。6月まで16か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①経済活動の再開が次第に進む中で、今後、観光、消費がどのようなペースで持ち

直していくのかを、特に注意して見て参りたいと思います。また、②再開後も当面は低水準の経済活動が続くとした場合に、雇用面や設備投資計画にどのような影響が生じるか、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地の建設業者がこれまでどおり受注を続けられるかどうか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上